

令和 3 年度 宇陀市立榛原小学校 自己評価書（教育活動）

学校教育目標	知・徳・体の調和のとれた たくましくしっかりした子の育成								
運営方針	◇基礎学力や体力を大切に「生きる力」を育む。 ◇人権尊重の精神に基づき、一人一人の持ち味を大切にする。 ◇地域に開かれた安全・安心な学校づくりを進める。				《目指す子ども像》		○いきいき … なかまと協力し、進んで学ぶ子 ○こつこつ … 仕事や勉強をやりぬく子 ○にこにこ … 笑顔であいさつし、つながりを広げる子		
前年度からの課題	・学校目標や経営方針が各部や学年の取組に反映し、学校評価に繋がる体制をつくる。 ・様々な状況を想定した危機管理のための体制整備(特に、学校安全)を進める。 ・ベテラン教員の実践を若手教員へ引き継げるようにする。 ・研究・実践の更なる深化を目指し、校種間連携や多方面からの情報収集に努める。				本年度の重点		・ユニバーサルデザインを生かした授業づくりをさらに推進する。 ・『「分かる」「できる」「認められている」を実感できる授業づくり』をテーマに研究を深める。 ・挨拶、廊下歩行、履物揃えを全職員が足並みをそろえた生徒指導を進める。 ・健康づくり・家庭学習の充実に向けた取組を推進させる。		
大項目	中項目	小項目	具体的評価項目	評価指標	評価	担当	成果と課題	課題の改善方策等	
教育活動に関するもの	(1) 学習指導	学習指導計画	指導計画の作成と実施	・指導計画を作成したか（部会別計画書）	A	A 奥	○部会ごとに作成した計画書をもとに、主体的に取組を進めることができた。 ○中間報告や年度末の総括の場で、それぞれの実践を交流した。 ○コロナ禍で、少人数での意見交流は密になるためできなかったが、全体の場での発表を通じた意見交流を積極的に取り入れた。また、タブレットを使った意見交換等、新しい形態を取り入れた実践もあった。	◇次年度も、児童の実態や教師の要望を踏まえた新たな研究テーマや研修方法を決定するとともに、計画書を作成して取組を進めたい。 ◇本校は、これまでUDの視点に立った授業展開を大事にしてきた。若い先生方も共通認識をもって指導に臨めるよう、教師の学びの場を増やしたい。	
				・指導計画通りに実践を進められたか。	A				
		指導方法の工夫改善	ユニバーサルデザインを目指した授業づくり	・見通しや目標をもって学習に取り組める工夫ができたか。	B				
				主体的・対話的な学びの授業作り	・学び合う学習を取り入れたか。（ペア・グループ学習）				A
	(2) 生徒指導	挨拶の習慣化	学校内での挨拶の実施状況	・児童が進んであいさつをすることができるか	B	B 宮崎	学級内では友だち同士でのあいさつが気持ちよくできている。一方、挨拶を返すことができていない児童も多い。また、マスク着用のために、言っているが伝わっていない児童も多いのではないかと考えられる。 指導にばらつきが見られる。右側歩行に加えて、静かに歩くもできていないので、指導者の意識が同じ方向に向くことが大事。また、指導を受けても素直に聞き入れない児童が多い。	・まずは「返す」を徹底する。 ・全学級で「気持ちのよい挨拶とは？」という全校道徳を行う。 ・会話の難しさがあるので、会釈付きでの挨拶がよいといったことをテレビ放送等で知らせる。 ・指導者の意識の徹底。 ・雨の日の校内放送。 ・全学級で「なぜ静かに右側歩行？」という全校道徳を行う。	
				正しい挨拶の意識付け	・正しい挨拶の意識付けのために挨拶運動を行ったか				B
		正しい廊下歩行	正しい廊下歩行の徹底	・正しい廊下歩行の意識づけのために定期的に、教師が指導を行ったか	B				
				正しい廊下歩行の実施状況	・児童が安全を意識して、廊下を歩いているか				B
	(3) 健康・体力向上	健康・衛生に関わる意識の向上	食育に関わる指導計画や実施状況	児童の健康・衛生に関わる意識の向上のために計画的に指導を行ったか（委員会活動も含む）	A	B 毛利兵頭岩城	○新型コロナウイルス感染症対策のため、給食時の黙食の徹底を行った。委員会活動を通じて、「残食」について全校児童に呼び掛ける取組を行った。 ○健康相談等により児童の心身の健康意識の向上を図った。また新型コロナウイルス感染症における感染対策を学校全体で取り組んだ。家庭には毎朝の検温や健康観察カードの記入、マスク着用、風邪症状時は登校を控え受診する等の協力を求めた。 ○PTA主催の給食エプロンの修理等、協力を得ながら進めた。コロナ感染拡大防止のために学校保健委員会の開催は見送った。 ○体力テストの結果を分析した。本校の現状について共通理解し、課題となっている部分を向上させるために、授業時にできる取組を提案することができた。	◇PTA及び家庭との連携を大切にし、給食・保健活動を継続していく。 ◇コロナウイルス感染症における感染対策は継続していく。また児童の心身に関わる健康についても保護者と連携し取り組む。 ◇PTA及び家庭との連携は今後も大切にし進めていく。	
				健康・保健活動の充実	児童の健康状態や心身の課題に応じた指導ができたか				A
				家庭との連携	家庭と連携し、取組を進めることができたか				B
		体力向上の取り組み	全校体制での取組の実施	外遊びを推進する取組を継続的に行うことができたか	B				
児童の体力の実態把握	体力テストの結果を反映した授業づくりができたか			B					
(4) 特別支援教育	指導方法の工夫改善	校内での連携	週案を提出し連携できたか。	A	B 向井野中宮崎	○UDの授業づくりについて、特別支援コーディネーターから職員に向けた研修を行った。 ○新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、公開授業を行うことは難しかったが、「学級経営部会」で、UDシートを活用した研究授業を行った。 ○個別の支援計画やサポートファイルなどを活用して児童理解研修を行い、支援を要する児童の実態や手立て等を教師間で共通理解することができた。	◇校内で「ユニバーサルデザインの視点での具体的な取り組み」を年度始めに提案し、学校全体で足並みをそろえて取り組んでいく必要があると考える。 ○入級・通級児童の自立活動の時間を保障することを職員間で共通理解する。担任間で連絡を取り合い、適切な学習が行えるように努める。		
			ユニバーサルデザインの授業	授業を公開し、協働で指導法を工夫できたか。				B	
	組織的な特別支援教育	校内委員会の実施	学期に1回校内委員会を開いたか。	A					
			情報の共有	個別の支援計画を活用できたか。				A	
(5) 人権教育	人権に関する取組の推進	なかま集会の実施	なかま集会を4回実施したか。	B	A 木村	○「なかま集会」は放送で行った。各学年の人権集会や振り返りは、各学級で個別に行うこととした。 ○「人権をたしかめあう日」の放送を月に1回行った。コロナ問題やオリンピック、パラリンピックなど、今の情勢を反映したもの、普遍的な問題の両方を扱い、全校児童が考えるきっかけ作りを行った。 ○年間計画の内容は昨年度と同様で変更は行っていない。 ○人権参観を行っていないため、「人権だより」には「人権をたしかめあう日」の内容や感想を掲載し、保護	◇その年の状況によって、引き続き、なかま集会の実施方法を考えていく必要がある。 ○今、問題になっていくこと、普遍的なものをうまく組み合わせていくことが大切だ。 ○年度当初に年間計画を立てるが、その時の状況によって、柔軟に対応していく必要がある。 ○内容により、状況に応じて変える必要があるが、「人権だより」は学期に1回は発行していきたい。		
			人権を確かめ合う日の取組の実施	子どもの実態に合わせた取組が計画通り実施されたか。				A	
	指導方法の工夫改善	人権教育の年間計画の精選と見直し	子どもの実態に合わせた年間計画を作成できたか。	B					
			地域や保護者への啓発	人権だよりを保護者や地域に向けて年3回発行できたか。				A	